

2023（令和5）年度 京都大学 入試問題 理系 第1問 解答例

問一

ドラマとしての演劇では、観客は単に舞台上の俳優の演劇を見るのではなく、劇場における演劇の主体として俳優とも呼応しつつ、演劇のリアリティを創り出すということ。

問二

演劇では、劇場で俳優の演劇に呼応して、観客は進行の主体となりうるが、映画では、筋書きは結末まで確定されてフィルムに収められ、観客には左右できないと思われるから。

問三

近代劇では、鑑賞者に精神の自由がなく、日常生活のものまね演技を見る程度であれば、演劇を造って見せる側に回る方が、生きる自覚である主体性が得られると思われるから。

問四

演劇は、観客が主体であり、劇場で俳優と呼応しつつ演劇を成立させていた。しかし、近代芸術以降、現代では、芸術も含めたあらゆる活動において、人間は各自の自我を拡大する欲望にとらわれ、あらゆる他者をそのために利用する手段としかみなさず、互いに断絶して自閉しているということ。